

度も訪中し、これまでのギクシャクした中朝関係を修復し、中国の後ろ盾を得たことも、米国の軍事力行使のハードルを更に押し上げている。

或いはまた、「非核化」の代償として、トランプ大統領は、在韓米軍撤退のカードを切ってくるかも知れない。そうなれば、東アジアの軍事バランスは大きく変わり、日本も安全保障戦略の練り直しを迫られることになる。また状況によっては、朝鮮半島の南北統一の議論が進み出す可能性もある。直ちに完全な統一は無理としても、緩やかな連邦制への移行が視野に入ってくるかも知れない。仮に、核保有の反日、親中連邦国家が朝鮮半島に誕生すれば、日本に

とって悪夢に違いない。

いずれにしろ米朝首脳会談に浮かれている場合ではない。安全保障に楽観論は禁物である。北朝鮮の非核化が頓挫し、米国が軍事力行使に傾けば、日本も無傷では居られない。或いは逆に、米国が下手に妥協して朝鮮半島に核が残れば、日本は核の脅威に晒され続けることになる。どっちに転んでも日本は戦後最大の危機を迎えることになる。安全保障に想定外はない。今後の米朝実務者協議の行方に一喜一憂し、右往左往するのではなく、自ら最悪を想定して真摯に向き合い、準備すべきことを今から準備しておかなければならない。

## 表舞台に出てきた金正恩の深層にある意図を読む

―北朝鮮には、核・ミサイルを廃棄する意志は見えない。  
嘘つき国家に変わりない―



政策提言委員・軍事／情報戦略研究所長 西村金一

北朝鮮の金正恩委員長は、米国と韓国の大統領との会談で、「朝鮮半島の完全な非核化に取り組む」ことは約束したが、「北朝鮮(以後、北と標記)の核を放棄する」とは一度も発言しなかった。しかし、二人の大統領は、金正恩委員長を「信頼できる」「信じている」と言う。何故、「信頼できるのか、その根拠は何か」の質問には答えていない。

米朝会談の共同声明には、米国が強く主張していた「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化」が盛り込まれなかった。米国は、更に、北の核を廃棄させる具体的な道筋と

期限を決められなかった。トランプ大統領は交渉人と自称する人だから、金正恩に「核を廃棄する」と言わせるかと、少しは期待したが「朝鮮半島の非核化」という表現でごまかされてしまった。

最も重要な非核化の実現の目途について、具体的な目標を決めなければならない。例えば、核爆弾の原料を製造するウラン濃縮工場やプルトニウムができる5MWの黒鉛原子炉、弾道ミサイル製造工場の公表と会談後約1年には破壊するという目標などだ。そうでなければ、トランプ氏の在任期間(一

2021年1月まで、あと2年半)では、北の非核化は実現せず、反対に、北を核保有国として認めざるを得なくなるだろう。

一方、前回の板門店での南北会談では、韓国の文在寅大統領が、金正恩委員長の「叔父の張成沢を高射砲で殺害し、実兄の金正男を化学兵器 VX 剤で公衆の面前で無残に殺害した指導者」という印象を、「平和を求めている、ものわかりのいい、人間性溢れる戦略家の指導者」に作り変えている。

板門店宣言の内容、文在寅政権の動きと韓国国民の反応を見ていると、韓国が北に呑みこまれそうで不気味な恐ろしさを感じる。

相手国の戦略を読み取るには、その時々が目立つ事象に左右されてはいけない。譬えると、海の流れを見るには、表面のさざ波を見るのではなく、海の底を流れる海流を見なければならないのと同じだ。北の戦略や動向を読み取るには、今、表面に起きていることだけでなく、深層にある意図を読み取る必要がある。でなければ、北への対応を誤ってしまうのだ。北は、世界の民主的な国家のように、国際規約を長年守ってきた国ではない。嘘をつき、その時その場で、都合のよい言い逃れをしてきた国だ。

もし、北が、「国を開放する、核物質を製造する施設を爆破する」などの大きな変化を見せれば信用できるが、そうでなければ信用することはできない。

金正恩の深層にある意図を読むために、北による「朝鮮半島の非核化(核の放棄と体制保証)」及び「南北統一」の二面性を、別々に時には重ねて見なければならぬ。分析に際しては、①金正恩は本気で核を手放す意志があるのか、②「ならず者国家」から普通の国家に舵が切れるのか、③北朝鮮が言う「朝鮮半島の非核化」「体制保証」の狙いは何か、④北朝鮮による南北朝鮮統一戦略の狙いは何か、⑤今後の予想—を考察する。

## 1. 金正恩は本気で核を手放す意志があるのか

北が核を手放す意思があるかどうかを見るには、嘘つきの過去と、現在そこから脱皮しているのかを読み取らなければならない。

(1) 経済発展や人民の生活を犠牲にして、軍を優先して予算を投入してきた

金日成主席が1962年発表した「全軍の幹部化」、「全軍の近代化」、「全人民の武装化」、「全国の要塞化」の四大軍事路線を、北は長年推し進めてきた。

そのため、『2016世界軍備支出報告書』によると、北のGDPに対する軍事費の比率は、世界でも突出して高く第1位で23.3%を占め、大きな負担となり財政を圧迫している。北は長年、深刻な経済危機が続き、人民が飢餓常態にあったにも拘わらず軍事に重点を置いてきた。

(2) これまで、「並進路線」と言いつつも、核・ミサイル開発だけが最優先だった

2016年朝鮮労働党大会において、金正恩は、「経済建設と核戦力建設を並進させるといふ党の戦略的路線を引き続き貫徹しなければならない」と述べた。ということは、名目的には、金正日総書記時代の「先軍政治」から、経済建設も同時に進める「並進路線」へ舵を切ったということになる。だが、現実に「並進路線」を進めていた訳ではない。軍事費にはGDP比23.3%(2016年)を投入し、更に、国際社会の厳しい経済制裁の下でも、核ミサイル開発に邁進していた。

今年の4月、党中央委員会総会で、「並進路線」が役割を終え、社会主義経済建設に総力を集中する「新たな戦略的路線」への転換を表明した。

しかし、それが本気かどうかは、軍事予算や兵員を削減するか、国を開放するかど

うかを観察すれば、容易に判断ができる。

### (3) 北朝鮮に何度も裏切られた過去

金日成主席は1986年、北は「核兵器の実験・製造・備蓄・導入をしない」と宣言。1991年には、韓国と「朝鮮半島の非核化に関する共同宣言」に合意。1990年代に「核を保有する意図は持っていない」と何度も主張し、核開発を認めなかった。

ところが核開発を隠せなくなると一転、2003年に自国の核開発を「抑止力のため」と宣言した。

また北は、「いかなる先端兵器による攻撃も圧倒的に撃退することのできる強力な軍事的抑止力を備えることのみが、戦争を防ぎ、国と民族の安全を守ることができるというのがイラク戦争の教訓である」と述べている。

1994年の米朝枠組み合意、2005年の六者会合の「共同声明」があるにも拘わらず、北は合意事項を守らなかった。

2005年には、「あくまでも自衛的な核抑止力だ」と核兵器を保有していることを認めた。

金正恩は今年の新年の辞で、人民に向けて「昨年のめざましい成果は、国家核武力完成の歴史的偉業を成就したことだ」と述べた。しかし、金正恩は特使団には「『非核化目標は先代の遺訓だ』と述べたと報道されている。

つまり、北は話す相手によって言葉を使い分け、その時の都合によって発言内容を変えているのだ。特に、「非核化」という言葉が、米韓を騙すキーワードのようだ。

### (4) 今年5月の核実験場爆破は、北朝鮮がよくやる下手な芝居

北は5月、豊溪里の核実験場の爆破を公開し、核の放棄を示す宣伝を始めた。その時、米・英・中・露・韓国のマスメディアは招

待されたが、爆破を検証するための重要な役割を果たす国際原子力機関は招待されなかった。

爆破の映像を見る限りでは、坑道は、入り口だけの爆破で、その爆破の規模もかなり小さい。坑道の内部には、通常コンクリートや鉄の扉があり、内部まで爆破されていないと見積もられる。また、核実験場の付帯施設である建物の爆破については、建物だけであり、内部に収められていた機器類を爆破した証拠は公開されていない。このことから、機器類は事前に取り外されていたと考えられる。米国の研究機関である38ノースの、「坑道の周辺の技術支援設備が撤去されたのが確認された」という情報も私の見解を裏付けている。

過去にも北は、プルトニウムを製造することができる黒鉛減速炉の稼働を一旦停止し、最終的には解体することを約束したことがある。実行したのは、古くなった寧辺の反射炉を爆破しただけであった。その後、米朝関係が悪化するとたちまち修復して、作動を再開した。現在も稼働させて核爆弾の材料となるプルトニウムを生産している。

今後、北が廃棄（非核化）すると宣言しても、核・ミサイルの中核部分は絶対に残すだろう。破壊したところはすぐに修復する。同じことが繰り返されそうだ。

北が、「これから核放棄へのプロセスを進み始めた」というのは、見せかけのポーズであり、下手な芝居だと言える。今回の爆破状態であれば、半年から1年もあれば、実験再開が可能と判断すべきである。

## 2. 「ならず者国家」から「普通の国家」に舵を切れるのか

### (1) ならず者国家の正体

何より北は「ならず者国家」の本質を捨ててはいない。朝鮮戦争以降70年近く、韓

国や米軍に対して、ゲリラ攻撃・テロなど、数々の軍事攻撃・軍事挑発を行ってきた。日本でも多くの日本人を拉致して、北に連れ去った。

北は、1968年には、朴正熙韓国大統領の殺害を狙って韓国大統領府（青瓦台）を襲撃。1983年には、特殊部隊兵士がビルマのラングーンで韓国大統領を暗殺しようと爆破事件を起こした。1987年には、北工作員が大韓航空機をベンガル湾上空で爆破。2010年3月には、北潜水艦が魚雷で、韓国哨戒艇「天安」を沈没させ、多くの兵士を殺害した。更に同年11月には、韓国の延坪島に対して砲弾を撃ち込み、多数の重軽傷者を出した。

金正恩政権になっても、2013年、叔父である張成沢氏を機関銃で処刑し、2017年、化学兵器のVX剤で、兄の正男を人目に付く空港で惨殺した。

他国に対し、数々のテロ・ゲリラ攻撃などの軍事挑発を行う国、指導者が自分の兄を化学剤で惨殺する国は、この地球上で北だけだ。この「ならずもの国家」の指導者が笑顔を見せても、正体はテロリストの指導者であることに変わりはない。どんなに融和的な姿勢に出てきても、この本質を忘れてはならない。

## （2）騙し方がうまい

北の交渉戦略は、危機を演出し、「ここで交渉しなければ戦争になりますよ」と核兵器やミサイルの開発を見せつけることだった。米韓日は、戦争はしたくないと思って交渉に応じて北にまんまと騙され、北が核兵器を作ることを食い止めることはできなかった。

北は、3回目の今回も危機を強く煽ったことで、制裁と軍事的圧力を受けた。その効果で苦しくなって、違った交渉を仕掛けてきている。

もう騙されないぞと待ち受ける米国に対

し、北は平昌オリンピックを利用して金与正を出して、「誠実な金与正さんが仲介しているので、今回は信用できますよ」というカードを付け加えた。韓国統一部長官は、金正恩の妹で金与正氏について、「北の最高指導層に金与正副部長のような性格の人がいることは幸いだ」とまで言い切った。

今回も、金正恩は「いまがチャンスですよ」と煽っている。金正恩は韓国の特使団に「トランプ米大統領と会って話し合いをすれば、大きな成果を出せる」と発言し、トランプ氏に伝わるようにしていた。

韓国特使は、トランプ氏に「金委員長は率直に話をするし、誠意を感じた。過去の過ちを繰り返してはならないが、今回のチャンスを逃さないでほしい」と呼びかけた。

北の騙し方が上手いのか、こんな騙しに上手く乗せられている方も問題だ。

## （3）180度異なることを平気で言う

2010年、北は、韓国海軍の哨戒艦「天安」に対して魚雷攻撃を行い撃沈し、延坪島に数十発の砲弾を撃ち込んだ。この時、全ての南北関係を断絶すると発表していた。それにも拘わらず、北は2011年の新年の辞では、「南北間の対決状態を一日も早く解消しなければならない」、「対話と協力事業を積極的に推進していかなければならない」という関係改善目標を提示した。即ち、北は、前年には限定的な軍事攻撃を仕掛け、南北関係を断絶すると発表していながら、翌年には、前言をひっくり返すように平和的な発言を唱えているのである。このように北は、自分が戦いを仕掛けておいて、そのことを忘れたかのように、平和を守ろうと主張する。自分から相手を殴っておいて、その後、善人のふりをして、仲よくしようと言うのと同じことだ。北の悪意ある行為と、その直後にそれを覆い隠す友好的な発言の

繰り返しては、北の外交的発言や合意は信用できず、守られないということである。今行われているのは、「悪意ある行為か」、「友好的な発言なのか」を判断することが重要だ。

2017年には、北は大陸間弾道ミサイル(ICBM)の開発と6回目の核実験(北は水爆実験と発表)を実施した。その翌年の2018年新年の辞では、「現下の情勢は、今こそ北と南が過去に縛られることなく、北南関係を改善し、自主統一の突破口を開くための決定的な対策を立てていく」と、また、「北と南はこれ以上情勢を激化させるようなことをしてはならず、軍事的緊張を緩和し、平和的環境を作り出すために共同で努力しなければならない」と述べている。

2010～11年の発言と同じことが、2017～18年にも再び起こっている。

北との外交交渉に入ると、「北は、今度こそ合意を守ってくれる」と信じる人がある。その期待は、「幻想」に他ならないことを肝に銘じておくべきだ。

北との外交で必要なのは、合意が守られるものと思うのではなく、合意された内容を守る保証を取ることなのである。

### 3. 北朝鮮が言う「朝鮮半島の非核化」 「体制保証」の狙い

(1) 米軍のプレゼンスを韓国から排除するための、米韓軍事同盟の破棄だ

北が「朝鮮半島の非核化」(北による核の廃棄ではない)や「体制の保証」を持ち出してきたのは、何故か。

北は、北による朝鮮半島統一という国家目標達成のため、核兵器と米国に届くICBMを交渉の手段として使って韓国から米軍を追い出し、米国からの核ミサイルが自国に打ち込まれない確証を得たいと考えている。更には韓国を軍事的手段で占領するために、「米韓軍事同盟の破棄」を望んで

いる。そのためには、1950年に始まった朝鮮戦争の休戦協定をやめて、平和協定を結ぶことが第一歩なのである。

北が狙う平和協定とは、南北が共存する「平和」の意味ではなく、米軍が北に対して軍事力を行使できない仕組みを実現させることである。その証拠に、北は今年の新年の辞で、「南朝鮮(韓国)は、米国の核兵器と侵略兵器を引き入れる一切の行為をやめるべきだ」と発表している。北が望む「平和」では、朝鮮半島の非核化と体制の保証とは不可分である。

平和協定締結となれば、米韓軍事同盟も存在根拠を失う。もし北の望み通り、米朝合意に至って、米軍や国連軍が韓国から完全に撤退し、韓国軍だけで韓国を防衛することになると、当然、南北の軍事的な均衡(安定)はなくなる。

### 米韓軍事同盟を破棄させるための

#### (2) 米韓軍事同盟を破棄させるための 北朝鮮戦略

北が利用しようと狙いを定めたのが、「南北首脳会談」「朝鮮半島の非核化」「南北の平和統一」という餌につられやすい文在寅韓国大統領だろう。文氏には、金大中や盧武鉉の両大統領が実施した南北首脳会談を自分も行って、南北の平和統一に貢献した大統領と思われたい心理があるはずだ。だから、そのことを熟知している金正恩の妹、金与正氏は、「文大統領が金正恩委員長と会えば昔のように迅速に南北関係が発展できる」と述べ、「文大統領と早期に会う用意があります。都合のいいときに来てください」と金正恩のメッセージを口頭で伝えた。

南北首脳会談の結果を、北朝鮮国営の朝鮮中央通信は「満足な合意をみた」と伝え、韓国特使団は「失望させない結果があった」とし、そして、「北側が朝鮮半島の非核化の意志を明確にした」ことなど、南北で合意

した6項目について発表した。

だが、北国営の朝鮮中央通信や労働新聞には、南北合意事項である ①南北首脳会談を板門店で行う ②北側が朝鮮半島の非核化の意志を明確にした ③米韓軍事合同演習について理解を示した一などの内容はおろか、会議の中で「金正恩が、朝鮮半島の非核化は先代の遺訓と述べた」ことも全く記述されていない。

国営通信で発表がない限り合意したと判断するのは、ミスリードだ。にも拘わらず、韓国側が北の今回の発言を安易に受け入れて発表したということは、韓国政府や特使団が、もう既に「北の罠に嵌ってしまった」ということである。南北合意の急展開、韓国側の一方的な合意の発表、文在寅政権の北擁護と見られる発言も同じことだ。

### (3) 合意により在韓米軍や国連軍が撤退すれば

北は、核兵器廃棄の約束の見返りに、早急に国連制裁を解除、その後の米韓合同演習中止、在韓米軍の削減と撤退、韓国国連軍の解体を求めるであろう。次に、現在、韓国国内には米軍の核兵器は存在しないが、再配備となる米国の核兵器搭載可能な潜水艦の寄港、爆撃機の飛来の禁止までも求める。更に、日本海や太平洋における、港水艦、爆撃機などからの核ミサイル攻撃も認めないこと、つまり脅威となる米国の核の傘(抑止力)を排除することを求めるであろう。そして、これら北の要求を現実化するための焦点となるのが米韓軍事同盟の破棄なのである。

もしも本当に、米軍の撤退が実現したら、韓国が平和になるかという、そうではない。北との友好ムードを進める文在寅政権下では、韓国国内に潜伏している工作員と、後から潜入する特殊部隊によって、国内が内乱状態になるのは目に見えている。内乱

に乗じて、ソウルに、12万人の北の特殊部隊が空から、海から、トンネルから潜入を始め、軍事境界線から地上軍が攻撃を開始する。北の電撃作戦によって、ソウルは短期間で占領され 釜山へ到達するのも早い。米軍が存在せず、米軍の核攻撃もないのであれば、韓国の占拠は、短期決戦で完成する可能性が出てくる。

金日成主席時代からの国家目標、つまり、あらゆる手段を用いた南北の統一が実現する可能性が高まるのである。

### (4) 米朝交渉が時間稼ぎに使用される、北の核は50~100個に

今では、北が保有している核兵器の数は、13~30個になってしまった。

もし、交渉が長引き、北の核兵器を廃棄させられなければ、或いは軍事攻撃で核兵器を破壊できなければ、また、斬首作戦により金正恩を葬り去り民主的な体制に交代させられなければ、北の核の脅威はどのようになるのか。プルトニウムの製造が進み、50~100個の核兵器を製造するようになる可能性がある。米ジョンズ・ホプキンス大の北朝鮮分析サイト「38ノース」の研究者も同様の予測をしている。

核・ミサイルの高度化も進むだろう。昨年の6回目の核実験は、爆発規模が120~160キロトン(防衛大臣発言)と推測され、爆発規模からすれば、ブースト型核分裂爆弾が成功したと判断できる。2020年前後には、確実に水爆の実験を成功させ、その後小型化にも成功するであろう。しかもミサイル弾頭部の多弾頭化にも成功すれば、現状の米日韓のミサイル防衛による撃墜も困難になる。日米ミサイル防衛に対し、北の「多弾頭化による迎撃を防ぐ可能性」は格段に高まり、そのせめぎ合いはエスカレートしていく。

私は、この可能性が最も高いと考えている。

#### 4. 北朝鮮による南北朝鮮統一戦略 騙される韓国

南北朝鮮統一は、東西ドイツ統一とは全く違う。南北関係改善の動きや韓国と北の平和ムード作りは変化が極端で、あまりにも不気味だ。今回の南北首脳会談での金正恩委員長「同じ血を受け継ぐ民族だ」という発言に、韓国政府はまんまと騙されてしまうのか。文在寅は悪魔に魂を売ってしまっているのか。

現在考えられるのは、北が核を保有（非核化のカードを見せるだけ）したまま南北融和、その後、統一へ進むというシナリオだ。だが、その「統一」は、南北で思惑が違う。

北は韓国との交渉で、韓国から米軍を撤退させ、韓国軍を削減させる。また、民族融和の言葉で韓国国民を平和誘導することにより、弱体化させるだろう。そして、最終的には韓国の思惑とは違った北が、韓国を飲み込むという「統一」に向かうのではないだろうか。

南北首脳会談の陰で、金正恩は何を狙っているのか。

板門店宣言には、隠された罫がある。板門店宣言は、

- ①南北自主統一を早める
- ②今年中に終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換する
- ③朝鮮半島の非核化に向け努力する、との3つの要素からなる。

南北の平和的統一で、朝鮮半島に平和が訪れるという印象だが、南北首脳の二人や韓国国民は、それぞれが自分の都合がいいように板門店宣言をイメージしている。

また、板門店宣言には韓国の危機も隠されている。平和協定を結ぶと、必然的に米軍が韓国に存在する理由がなくなってしまう。板門店宣言の軍事分野をよく見ると「一切の敵対行為を全面中止する」、「段階的に軍縮を行

う」と書かれている。

そこには、韓国から米軍を追い出し、南北境界の障害を取り除き、韓国に軍事的な空白を生じさせようとしている隠れた意図が見える。

韓国の若い女性がインタビュー取材を受けて、「統一後はどうなるのか見えない」と言った。私も同感で、統一の姿が全く見えていない。実は、韓国国民にとっては大変不幸なことが起こるのではないかと心配している。

#### 5. 今後の予想

今回の米朝交渉は難しい。何故なら北が核兵器やICBMをほぼ完成させているからだ。交渉の焦点は、北の核ミサイル廃棄と北の体制保証、即ち米韓軍事同盟の破棄だが、北が核廃棄はしないという北の本音を米国が見透かしていれば、軍事的合理性から見て、米朝共同宣言にある完全非核化が進展するとは考えられない。

核兵器を保有すること、即ち核大国であることが、金日成から続く北国家の大方針だ。金正恩がこの大方針を変換できる訳がない。

これまで2回の合意が守られなかった。現在の段階で、米朝会談の結論を出すのは早過ぎるかも知れないが、合意した内容を見れば、過去の2度の失敗と同じことが繰り返されそうだ。

これから北が核を放棄する具体的な交渉は進まないだろう。恐らく、米国の中間選挙の前後には「朝鮮半島の完全非核化」について、北は「まず、朝鮮半島への米国の核の脅威を無くすべきだ」と主張する。そして「米国は、北の体制保証をする」と言ったのだから、「韓国の米軍を撤退させるべきだ。そうでないならば、我々は核を放棄することはしない」と反発するだろう。

米国による軍事的圧力と、これまで最も厳しい国連制裁は何のためだったのかと、トランプ氏に期待していただけに残念でならない。